



命をつなぐ幸福度の高い地球社会を創る

# 地球蘇生プロジェクト 通信

2015  
SPRING / SUMMER

Vol. **03**

## 映画「蘇生」撮影記録

映画「蘇生」を福島へ届けたい

地球蘇生プロジェクト映画制作

20世紀最大の預言者

エドガー・ケイシーが読み解いた人類の未来

恩送りフェスタ 報告



# 地球蘇生 プロジェクト

命をつなぐ幸福度の高い地球社会を創る



調和  
HARMONY  
祈  
PRAYER  
命の輪  
NETWORK  
環境  
ECOSYSTEM  
〈 3つの神器 〉

### ◆ ライフスタイル 祈りが精神的軸

#### 食

- 愛と慈悲の小食
- 自給自足
- 半農半芸
- 地産池消

#### 教育

- 魂の教育
- 足るを知る
- 利他の精神
- 右脳教育
- 慈愛教育
- 生体エネルギー学
- 波動学

#### 医療

- 量子物理学的全体医療
- 医療大麻
- 祈り
- ヒーリング
- 音響療法

#### エネルギー・技術

- エネルギーアート
- 共生テクノロジー開発
- 蘇生技術
- フロンティアサイエンス
- ヘンプ

### ◆ 政治 地球全体を第一主義として考える

#### 環境

- 水源保全
- リトリート (全生命の安楽地)
- リユース
- リサイクル

#### 経済

- 分かち合う経済
- GNH (国民総幸福量)
- 「寄り合い」制
- 地域主体
- 農業中心

#### 防衛・外交

- 南極スタイル  
(個・人種・国を超えた共同体・共同作業)
- 自衛防衛  
(愛を伝えつづけることが最大の自衛防衛)

#### 税・社会保障

- 江戸モラルの実現  
(与えるものが受け取るもの)
- 「恩送り」
- 「相身互い」
- 「お蔭さま」



02 地球蘇生へ向けて  
共に行動を。

地球蘇生  
プロジェクト代表  
白鳥哲

03 映画「蘇生」撮影記録

09 映画「蘇生」を福島へ届けたい

10 地球蘇生プロジェクト映画制作  
20世紀最大の預言者  
エドガー・ケイシーが読み解いた人類の未来

11 第2回 恩送りフェスタ報告

13 時芽輝ツアー／イスラエルツアー

14 地球蘇生へ向けての活動報告

# 地球蘇生へ向けて共に行動を。

皆さん、こんにちは。白鳥哲です。

2015年4月25日にネパールの首都カトマンズ北西77km付近でM7.8の巨大地震が発生しました。死者8千人にも及ぶ大地震になりました。亡くなられた方々の御冥福を心よりお祈りすると共に、今も尚続く余震に不安と恐怖を抱かれている方々が一日も早く心穏やかに暮らせる日が来るよう心からお祈り申し上げます。

今、世界では数々の天災のみならず、多くの人が災が起きています。対立の火種となるテロや誘拐殺人、戦争が各地で続いています。民族や宗教が持つ感情的な原因の他に、「お金」があります。お金の欲しさに多くの人間が必死になり、卑劣な行動を正当化しているのです。

絶滅に向かっていく野生動物やありとあらゆる生き物たちを殺す理由も「お金」です。お金は紙切れ(紙幣)と金属(コイン)、電子マネーといった便利な道具に過ぎません。便利な道具をより多く手にしたいがために、お互いに憎しみ合い、殺し合い、動物や植物の命を奪い、大地を汚し、海を、山を、空気を汚し続けているのです。

いつからそうなってしまうのでしょうか？  
このままそのような生き方を続けて、私たちに未来はあるのでしょうか？

そろそろ新しい未来のために行動しませんか？  
地球蘇生プロジェクトは明るい未来への道筋をヴィジョンとして示し、広く共有し、それに向かってみんなで行動していくことを目標としています。

人類が希望ある未来に向かって歩いていくためには、まず自らの心のうちにある恐怖心や不安を浄化

ていくことが大切です。

こんなにも地球上の生命を痛め続ける原子力発電がやめられないのも、「原発を止めたら生活が出来なくなる」という思い込みや恐怖心の現れです。「他国からめられるから守らなければ」と言って、まだ起きていない抗争に備えて軍備増強するのも恐怖心や不安があるからなのです。今や普通の人も武器を手に入れやすい時代となり、ドローン、無人爆撃機、ロボットなど、遠隔操作で兵器を扱えるところまで来ています。インターネットなどを通じてあつとつ間に世界中に広がってしまう不安や恐怖は、やがてお互いに対する不信を生み、その不信はやがて対立となり、戦争へと発展していくのです。

その先に待ち受けているのはどんな世界でしょう。その世界をあなたは望みますか？  
ひとりひとりの日々の思考や行動が未来を創っていきます。

まずは、日々沸き起こる不安や恐怖心に気付き、それを認め、赦しましょう。

そして感謝を言葉にしていきましょう。

真心こめて、感謝を伝えていきましょう。  
すぐ隣にいる方々、出会う方々の目を見て、愛を伝え合いましょ。

それが、地球蘇生への第一歩なのです。

地球蘇生プロジェクト代表 白鳥哲

「地球蘇生プロジェクト」を支えてくださる顧問の方々。



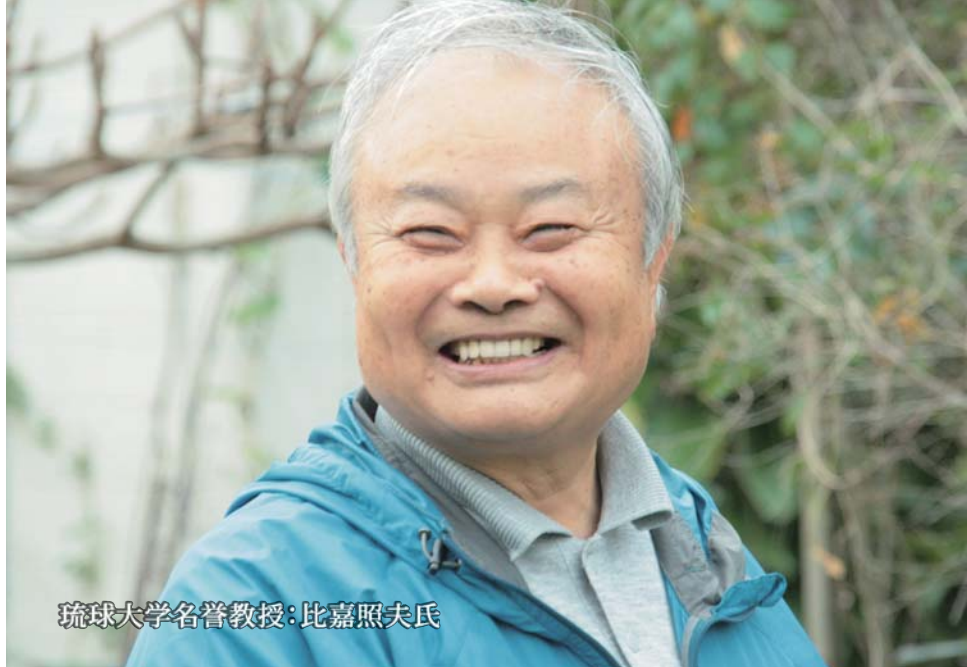
筑波大学名誉教授・  
心と遺伝子研究会代表  
村上 和雄  
祈りの力、意識の力を  
共に繋げていきます



株式会社F.E.D  
代表取締役社長  
木内 鶴彦  
エネルギーの方向性を  
共に考えていきます



森鍼灸院 院長  
森 美智代  
食の在り方を  
共に見つめていきます



琉球大学名誉教授：比嘉照夫氏



バイオ学者：飯山一郎氏とグルンバシステム



有用微生物建材で建てられた学校



# 映画「蘇生」撮影記録

## 有用微生物群は 節電と豊作の鍵

2014年1月中旬、沖縄にて琉球大学名誉教授比嘉照夫先生の密着撮影を行いました。

有用微生物群(Effective Micro-Organisms)は、主に光合成細菌、酵母菌、乳酸菌の三グループの共生関係で成り立っているのですが、比嘉先生は、その微生物の力を早くから周波数(波動)として捉えているのです。そもそも光合成とは、太陽光エネルギーを水素に転換する作業をいいます。光合成細菌たちはエネルギーを変換し、電子の流れを整流化する

働きを持ち、電気の質そのものを変化させます。そして乳酸菌や酵母菌の力はその働きをサポートしているのです。比嘉先生は、有用微生物群を実際に工学的に活用し始めており、送電効率を上げ、50%まで節電を達成しています。また、技術応用の結果、作物の発育や収穫量も

今までも数段も上がっています。比嘉先生の実験農場「青空宮殿」には、バナナが普通では考えられない実りをみせています。比嘉先生自ら収穫して下さったバナナを試食させて頂きましたが、その甘味は素晴らしいものでした。一年前から畑全体に張り巡らせた有用微生物整流電気の影響だと言

う事でした。農場の中そのものが一つの境界となっていて、台風などの災害も避けられるようになってきているのも特筆すべきことです。

## 微生物の力で ゴミを資源に

ゴミ問題の一つの希望の兆しとなる取組をしている太久保酒造を取材しました。九州鹿児島で昔ながらの製造方法で焼酎を作っている蔵元です。太久保酒造では、元上海鉄道大学教授でバイオ学者の飯山一郎先生が開発した「グルンバ・システム」という技術で、毎日10t近く出る大量の焼酎粕を微

粒子レベルまで粉碎し、乳酸菌発酵させて良質な堆肥に変え、その堆肥で作られた芋を使って焼酎を造るといふ、完全循環酒造の実践に成功しているのです。

## 「汚染」が大事な 「糧」となる 微生物たち

飯山氏は、乳酸菌を大量に培養し、生ごみや汚泥を肥料に変える取り組みを中国で成功させ、中国の砂漠の緑化運動などを精力的に行っているらしいです。乳酸菌のような有用な微生物は、悪臭の原因となるものを除去し、環境を浄化させ、良質な堆肥を作り、人間が砂漠化させてしまったたり、汚染してしまった土壌を蘇らせていくのです。ゴミが資源となるのです。飯山先生は、比嘉先生と同じ

く、光合成細菌と乳酸菌が放射能を除去することを確認し実証されています。そして、乳酸菌などの有用な微生物を日常的に摂取することによって免疫を高めることができるので、自分の身は自分で守りましょうと、ブログなどを通して広く訴えています。

## 微生物たちの 建設現場での活躍

同年3月に東南アジアを撮影で訪れた際、有用微生物群を都市計画に取り入れているマレーシアのタナステラ社にも取材してきました。光合成細菌

のような極限微生物たちは、1200度の高温でもきちんと情報として残ります。そのため、セラミックやコンクリートなどの建材などにも活用することが出来、それら建材は耐久年数が500年とも600年とも言われています。

タナステラ社が作る住宅や学校には有用微生物群が使われています。有用微生物群が入れたコンクリートは耐久性が上がるだけでなく、適度な室温となるため心地よい空間になるのです。取材に伺ったのは3月初旬で気温が33度前後でしたが、建物内はひんやりと心地よい空間になっていました。また、シヨッピングモールも有用微生物群の入ったペンキで塗られ、掃除も有用微生物群の入った液体で行われているので、清潔で過ごしやすい空間となっていました。



## 回想ドラマ 撮影スタート

2014年4月までに国内の主な撮影を一先ず終え、4月〜6月の間に荒編集をし、7月から回想ドラマの撮影準備と並行してドキュメンタリー部分の撮影をしてきました。東京の外堀や名古屋の堀川の撮影では、かつてのドブ川が、有志の方々の継続した微生物資材の投入活動により、今では多くの魚たちが戻り、水鳥たちが餌を求めてやってくる川へと変貌を遂げた姿を目撃し、微生物達の蘇生力のすこさを改めて体験しました。熊野の丸山千枚田では、昔ながらの棚田の光景の圧巻たるや、撮影クルー一同「遺していきたい」という強い想いに感じ入りました。

シナリオ作成、調査、ロケハン、

照夫像が打ち出せるのは前田耕陽さんです。」

綿密な調査を重ね作成された台本を元に「読み合わせ」が行われます。ここで、役者が持つてくるイメージと監督が打ち出すイメージの融合が成されます。その後稽古を重ね、実際の撮影へと現場は移行します。こうして人間としての息遣いが立体化していくのです。

現場では、監督が書いた絵コンテを元に、撮影、照明、録音、美術、そして演技者に細かい指示が出され撮影が進んでいきます。回想ドラマの撮影現場では、ドキュメンタリー部分とはまた違った世界観の中で、撮影クルーの絶妙な連携プレーが繰り広げられ、人生物語に息が吹き込まれていくのです。

回想ドラマの撮影が終わる

キャストイングを経て、いよいよ回想ドラマの撮影です。

回想ドラマでは琉球大学名誉教授比嘉照夫先生の半生を描くのですが、時代背景、人物の設定、当時の風俗など、あらゆる角度から調査し、収集し、選定がされていきます。例えば実験器具がどのようなものであったか。登場人物がどのようなトラウマを抱えているのか。白鳥監督曰く、人間のトラウマは大きく六つぐらいに分類できます。遺棄、否定、拒絶、裏切り、虐待、拒否です。その人物のトラウマがその後の人生の行動や生き方、思考、習慣に影響するのです。それらを読み取り、台本に描き、それを基に各スタッフに指示をしてドラマを作っていくのです。

人物を描写するときに、その人物の歴史、日常生活、身につけるもの、嗜好など検証し、人々と、いよいよ最後の本編集。音楽やCGの制作・挿入、整音、映倫審査などを経て完成へと向かいます。

## ポスト プロダクション

2014年10月に行った最後の撮影以降、ポストプロダクションと呼ばれる作業が始まりました。この段階から編集チームが登場します。映画「ストーンエイジ」以降、白鳥哲監督と共に制作に携わってきた森隆倫さんが中心になって編集作業が進められました。監督が用意した荒編集を元に、細かいテロップ、タイミング、映像効果、簡単な音の処理などが急ピッチで進められていきます。一分の映像編集に何日もかかったりする、地道で気骨のいる作業です。同

間の心理から行動まであらゆることを創造していきます。そこには監督自身の人間観察の集積があり、美術、衣装、ヘアメイク、撮影、照明、録音などと共に、ロケ場所を意図に沿った世界に変えていくのです。

回想ドラマの主演「比嘉照夫先生」を演じるのはテレビなどでも馴染みの俳優・前田耕陽さんです。前田さんは元ジャニーズ男闘呼組のメンバーで、舞台、テレビ、映画、バラエティーなど様々な場面で活躍をされています。前田さんの抜擢について白鳥監督はこのように言っています。「比嘉先生が若い頃は、今のようになてを穏やかに受け止められる状況ではなかったと思うのです。葛藤して努力して得た先に、今日のお人柄があるのだと思います。その葛藤する心情が伝わり、新しい比嘉

時並行して音楽制作・CG制作も進めていきます。

音楽担当の黒石ひとみさん。黒石さんは、アニメやテレビ、映画などで幅広く活躍されている著名なアーティストで、今回白鳥組初参加です。実は、白鳥監督が声優で出演しているアニメ「コードギアス」の音楽も手掛けていらつしやいます。黒石さんは、声優として知っている白鳥哲さんがどのような作品を監督しているのか？と興味津々だったそうです。監督曰く「現実的側面をわかり易く表現し、尚且つ繊細な太古の記憶を呼び覚ます純粋さ」が映画「蘇生」の音楽には必要で、黒石さんのアニメ作品でみせる快活な音楽と、画家の葉祥明さんとのコラボ企画「美しの里」シリーズなどで表現する優しく癒される音楽、その幅広さに惚れ込んで、是非映画「蘇生」



の音楽を作って頂きたいとお願ひしたと言うことでした。実際、黒石さんはそれぞれのシーンの意図を汲み取り、音楽で具現化し、表現の幅を大きく広げて監督を驚かせていました。今回、ナレーション収録と音作り全体の設計は、黒石さんが所属する音楽事務所・KIMスタジオが一手に引き受けてくれました。ハリウッド作品なども手がけているKIMスタジオでは、台詞だけではなく、効果音、音楽の絶妙なバランスを見事に具現化してくださりました。その迫力は是非劇場にてご堪能頂きたいと思ひます。(上映情報は公式ブログ参照)

CG製作担当は平山則廣さんを中心とするチームです。平山さんはNHK番組「人体」なども手掛けています。フランス人技術者とやり取りしながら連日深夜まで作業が続きました。

の中には修復する機能がある…、それが微生物まで遡ると見えてきますよということを明確にしてくれたことが本当に素晴らしかった。是非、多くの方々に見ていただきたい。人類全体が新しい次元に覚醒していくそんなきっかけになる映画だと思ひました。」

◎「次世代に生きる人たちに何を遺していけるのか？地球の美しさをそのまま伝えていけることができずようにと祈っていたことがそのまま表現されていて、私達自身が蘇っていないかといけない…。心の深い愛を伝えてくれた素晴らしい映画でした。」

◎「出演者の平井孝志先生が「微生物さま」「あのひとたち」と呼んでいたのが大変印象的でした。微生物のお陰で生かされている…全て感動でしたが、生命に対するその謙虚さに特

ようやく完成した映像に、音づくり、整音、ミキシングなど、音響制作を施し、2014年12月26日に日本語版初号が完成しました。

次は英語版制作です。微生物分野の専門用語を、いかにわかり易く、誤解を受けないように伝えるか…。今村真由子さんが字幕英訳し、スチュワート・ヘイワード氏とプロデューサーの三浦知子さんを中心に、年末年始に不眠不休で監修を進めました。そして2015年1月21日スタジオで本編集を行い、全ての制作が完成しました。

### 完成披露 試写会

2015年3月7日、都内のスペースFS汐留にて蘇生基金にご協力頂きました皆様

に感動いたしました。」

◎「白鳥監督が趣旨を明快にして、前作「祈り」に続いて、今、地球のためになされたこと、大変素晴らしいです。応援していきます。」

### 祝！映画 「蘇生」劇場公開

制作開始したのが2012年12月。それと同時に蘇生基金を広く公募し、2014年10月基金終了までに228の個人・団体・法人から46,956,385円の基金を寄せて頂きました。お蔭さまで映画「蘇生」は無事完成し、2015年4月4日から渋谷アップリンク、大阪シアターセブン、名古屋シネマスコレにて劇場公開がスタートしました。基金にご協力頂いたおひとりおひとりへの感謝の気持ちでいっぱい。ありがとうございます。

ご招待しての完成披露試写会が開催されました。琉球大学名誉教授比嘉照夫氏と白鳥哲監督の舞台挨拶から始まり、映画「蘇生」が上映されると、会場にお越し下さった皆様に衝撃と感動が広がっていきのが見て取れました。上映後に頂いた感想をいくつか御紹介したいと思います。

◎「とても感銘を受けました。これから私たちがやるべきことの方付けがされました。具体的な方法として何をすれば良いのかがわかりました。」

◎「この映画を観て私たちが気づかなければいけないのは、私たちの存在はいろいろな存在に支えられて生きていることに気づくことが、環境を良くしたり平和を生み出す事が出来る…そんな気づきを与えられました。感動しました。」

◎「地球の現状がこうで自然界国内公開と並行して、海外映画祭の出版作業を進めています。映画「蘇生」が多くの方々目に届き、地球の蘇生へ向けて人々の覚醒が始まることを願ってやみません。引き続き、皆様の応援をよろしくお願い致します。」

### 収支報告

収入の部	支出の部
個人・団体・法人 228	制作費用……………24,838,459円
合計……………46,956,385円	国内宣伝配給費 ……10,007,020円
	海外配給(映画祭)費用 ……12,110,906円
	合計……………46,956,385円

沢山のご献金、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



# 地球蘇生プロジェクト 中編映画「リーディング」制作中!



エドガー・ケイシーセンター所長の光田秀さん

## 20世紀最大の預言者 エドガー・ケイシーが読み解いた 人類の未来

「20世紀最大の奇跡の人」と称せられるエドガー・ケイシー(Edgar Cayce: 1877-1945)が残した膨大なリーディング(情報)の中から、これからの人類の示唆にとんだ内容を吟味してご紹介する中編映画「リーディング」エドガー・ケイシーが遺した人類遺産」を現在制作中です。

ケイシーは、その生涯を通して多くのリーディングを行いました。記録に残っている14万件以上の資料の内、約7割は様々な病気の原因と治療法です。例えば、日本人の死因第一位となっている癌について、「癌は血液の劣化から起きるものである」と答え、「酸素供給能力の劣化」「老廃物除去能力の劣化」「血液の凝固能力の劣化」が主な原因にあり、予防・治療に効果的な食事療法や光線療法が説かれています。その他、認知症や統合失調症などの具体的な処方も残されています。現代医学にも十分に応用できるケイシーの情報、肉体の治癒に留まらず、その奥にある霊的問題や魂のこと、更には人類全体の未来までを指し示した、私達の心身の健康について示唆に富んだ内容です。

ケイシーの残した莫大な資料を元に、米国バージニア州のA.R.E.(Association for Research and Enlightenment, ARE)によって現在も研究が進められており、1993年にはA.R.E.の正式な認証を得、日本エドガー・ケイシーセンターが設立されました。映画「リーディング」では、エドガー・ケイシーセンター所長光田秀さんにご登場いただき、ケイシーの福音を語って頂きます。

## 地球蘇生プロジェクト 映画制作 ご協力をお願い。

地球蘇生プロジェクトでは、希望ある未来像をより多くの方と共有し、地球蘇生へ向けて共に行動していくために、短編・中編・長編映画を制作し、インターネット配信・自主上映・劇場上映という形で発信しています。現在公式HP上で短編映画12編が公開されています。また、中編「リーディング～エドガー・ケイシーが遺した人類遺産より～」と短編「水素革命～循環できるエネルギーへ～」を現在制作中です。映像制作はアーシアン基金によって支えられています。皆様にご協力頂いた基金は、白鳥哲監督の芸術的感性と地球生命への深い愛と感謝を通して映画という作品に姿を変え、世界中の皆様へと恩送りされて行きます。分かち合い捧げ合う経済の実践。是非基金へのご協力をお願い申し上げます。

## 映画「蘇生」を 福島へ届けたい



未だに放射能の恐怖やこの先の未来に希望が持てないでいる方々へお届けしたいと、劇場公開と共に地球蘇生プロジェクトの活動の一環として映画「蘇生」を福島へ届ける活動を始めました。

福島県では、2011年3月11日原発事故以降 12万人以上の方が未だ故郷を追われ避難生活を余儀なくされています。避難先で感じる疎外感や、補助金が下りないことによる経済的な不安、家族や親戚、地域の人々と離れて暮らさなければいけない苦しみ…。想像を絶する痛みです。

被災地に残られている方や点在するホットスポット地域で生活をしている方々も、安全な食材選びの苦労や放射能への不安と恐怖：誰にも言えない苦しみを味わい続けています。特に子育て中のお母様方は、子どもを守るために日々奮闘し、旦那さんや家族との認識の違いに直面したりと、大変な心労を重ねている方も多いことでしょう。原発事故をきっかけに家族が散り散

りになり、コミュニティが分断され、お互いを傷つけあうように、地元から声を上げることが出来なくなっています。西洋が長年行ってきた植民地政策と似たものを感じます。

さらに、地元から声が上がらないことを良い事に、今の日本はまるで何もなかったかのように振る舞い始めています。原発事故は現在進行形であり、これからも真剣に向き合わないと大変なことになるでしょう。しかし、あたかも放射能問題を考えること自体が神経質で気違いじみた行為として見られるようになっていきます。

原発事故以降、甲状腺ガンの発生率や骨や血液の異常、突然死が増えていることなどからみて、明らかに放射能の害が関係していると推測できるのですが、その因果関係に触れること自体がタブーとされ、ますます問題を奥に追いやったまま、日本はさらなる過ちを繰り返そうとしています。

このままで

いいのでしょうか？

今私たちは何を

すべきなのでしょう？

それを考え抜いてきた映画が「蘇生」です。ここにはひとつの希望の道筋が描かれています。この映画「蘇生」を福島に届けたい。そして、福島の方々の想いを全国の皆さんにお届けしたい。

そんな思いから、映画「蘇生」を福島に届ける活動を始めました。福島県内で上映をご希望される方は、是非事務局までお問い合わせください。

福島での「蘇生」活動は公式ブログ内「蘇生ブログ inふくしま」で随時発信していきます。

# 第2回 恩送りフェスタ報告

地球蘇生プロジェクトの大きな柱に、分かち合う経済の実践があります。私達の文明は今、奪い合う産業構造にあり、ゆえに限りある資源を搾取・枯渇させ、大地を汚し、海や山、大気を汚し、水を汚し続けているのです。分かち合う方が豊かで幸福感で満ちることを体感し実感している人々が集い、繋がりがあって発信し続けることは、現在の産業構造を変える大きなインパクトとなります。



地球蘇生プロジェクトでは2013年から「分かち合う経済」の実践に取り組んでいきます。恩送り食事会、第1回恩送りフェスタなどを経て、「恩送りのバトン」が2014年12月21日の第2回恩送りフェスタに受け渡されました。ご登壇頂いた諸先生、ゲストの皆様は会の趣旨に賛同し恩送りでご参加くださいました。

## 「お金のいらぬ国」 長島龍人さん

落語で語られる世界は非常に面白く、長島さんの話術に引き込まれながら、自然と「お金が無い」「分かち合い」が当たり前の世界を身近に感じることが出来る貴重な機会を頂きました。



お金は単なる道具に過ぎない、紙切れ(紙幣)と金属(コイン)です。しかし、「お金がなくては生きていられない」と私たちは思いこんでいます。この思い込みがいかに根深く刷り込まれているのかを長島さんのお話で見事に気づかされました。

## 愛と慈悲の少佐 森美智代先生

映画「不食の時代」の主人公であり地球蘇生プロジェクト顧問でいらっしゃる森美智代先生。森先生が何故、青汁一杯で18年近く過ごされて来たのか。食べないことが実際に腸内細菌にどう変化を与え、また脳内の化学物質にどう影響しているか。食べないことを通して見えて来たエネルギーの世界の



トで目指している完全循環型農業を実践している時芽輝農場(三重県)の池添友一さんからは「種祭り」でみんなが持ち寄り分かつたこと、お金を介さず更に豊かになるという現象が起きたと報告がありました。お二人の生き方は未来への希望に溢れています。また、今回の中継ネットワークをプレゼントしてくださいました。一般社団法人地球市民学校代表の葛田博司さんのお話と呼吸法のワークで、会場の皆さんの心がさらに軽やかな波動に変わっていききました。

ご登壇頂いた先生方、中継の他に、白鳥哲監督の「恩送り」活動のきっかけとなったCall Me代表石丸弘さんにはギフトエコノミー(与える経済)のお話をいただきました。難民支援協



お話し。宇宙人のお話も飛び出し、森先生が持つ清らかでピュアな波動が伝わり、会場中が魅了されていました。

森先生の生き姿そのものが人間の無限の可能性を伝えていらっしゃると思います。これからの人類のモデルとなっているのです。

## 地球蘇生プロジェクト 白鳥哲代表

「地球蘇生へ」をテーマにお話した後、2015年4月公開の映画「蘇生」特別映像を上映しました。

## オペラ歌手 柏田ほづみさん

実は、以前から白鳥監督が柏

会石川えり代表により難民支援の現状報告、また、大切な家族を亡くした遺族のグリーフサポート活動を行う尾角光美代表の(二社)リブオン、他、国内で地球蘇生や善循環を起す活動を実践している団体のご紹介をさせていただきました。

## 上映

地球蘇生プロジェクト短編映画「ゼロ・エミッション」の特別上映。バイオ学者飯山一郎先生が開発されたグルンバ・システムが達成している完全循環のあり方をご紹介します。

## 地球への祈り



田さんに歌って頂きたいと思っていたある曲をこの日に披露して頂きました。

イスラエル国家「ハティクバ(希望)」です。

柏田さんは、この日の為にヘブライ語を学び練習されました。魂の奥まで響く歌声に会場中が深い感動で覆われました。

また、日本とイスラエルを繋ぐ活動を糸川英夫博士から引き継がれた赤塚建設(三重県)の赤塚高仁社長にもご登壇頂きました。

## ネット中継

今回初の試みで、世界各地において実際に地球蘇生、そして恩送りの精神で活動されてい

最後に会場に集う皆さん、中継で繋がった世界各地の皆さんと共に地球への祈りが捧げられました。集い想いを共有し祈る行為は、この日発せられた「分かち合い」のエネルギーは、人類全体の集合意識に大きなインパクトを与える事が出来たことでしょうか。分かち合い捧げ合う事はこれから起きる地球規模の難局を小難に変え、乗り越える力となります。これからももっと繋がっていきましよう。共に分かち合いを発信し続けましよう。

ご参加頂いた皆様、ご登壇頂いた諸先生方、また、運営をお手伝いして下さったボランティアアスタップの皆様、中継にご参加して下さった国内外の皆様、心から感謝いたします。



# 時芽輝ツアー

2014年10月4日～5日「時芽輝水屋神社ツアー」が開催されました。時芽輝農場に到着してまずは時芽輝ランチ。今回も時芽輝農場で育ったお野菜と穀物を使って池添ご夫婦お手製の美味しいごはんを舌鼓を打ちました。その後、池添さんの指導の元、みなそれぞれの手に鎌を持って稲刈りを体験。池添さんは2年前から「バラ蒔き」田んぼを実践しています。田んぼにモミをバラ蒔くのです。田んぼには稲だけではなく様々な植物が共存し生命力に溢れています。天日干しするために収穫した稲穂を束ねて、組んだ竹にぶら下げていきます。稲穂を担ぐ参加者の皆さんの笑顔がきらきらと輝いていました。

今回の体験で非常に興味深かったのが、畝を作る従来の農法と、雑草の中に植苗する「自然農法」。雑草の中に種を「バラ蒔き」して育てた畑の違いました。雑草の中に種をバラ蒔いた方が農作物が豊かに実っているのです。池添さん曰く「自然農ですらも本来の自然ではないのではないか」。池添さんは常に自然と対話されています。農法という決まったやり方はなく、自然

に聴いて育てる…。それが本来の在り方なのかもしれません。常に田畑を、いのちの営みを観察し、実験を重ねては最善の道を見出そうと努力を惜しまない、池添さんのあるがままの自給自足の生き方に地球蘇生プロジェクトが目指す未来像があります。

翌日は、水屋神社へ。正式参拝と講話をお願いしていた久保憲一宮司がご逝去されたため、後を継がれたお嬢様がこの日初めて宮司として公にご神事を務めるといいう大変な難くめでたき日となりました。大楠の根本に集い地球へのお祈りを捧げ、故人の御霊にご挨拶した後、赤塚高仁さんにご講話頂きました。久保宮司がいつも心に留めていらした大東亜戦争のペリリュー島のお話にて、参加者一同に深い感動が広がって行きました。久保宮司もその場にいらっしやうって見守ってくださいようでした。



## 地球蘇生へ向けての活動

地球蘇生プロジェクトでは、年間通して様々な勉強会・イベント・体感ツアー等を開催しています。こうした活動を通して有益な情報をみんなで共有し、共に地球蘇生に向けて行動していきたいと思っています。是非ご参加ください。

2014 10/4-5

白鳥監督と行く「時芽輝水屋神社ツアー」〔前述〕

会員の集い@大阪

アーシアン会として初の大阪の集いに多くの方が参加してくださいました。白鳥監督の講話の後、共に富士火山帯への祈りを捧げました。

シンポジウム「祈りと病苦」@高野山

映画「祈り」を上映の後、白鳥監督、高野山添田賢昭宗務総長、中村本然密教文化研究所長、医師小池弘人氏によって祈りと病苦についての話し合いがされました。

自然時間シンポジウム「蘇りの力」@富山

地球の現状とその蘇生へ向けての道筋について白鳥監督が講演。この日、監督が信頼を寄せるミッションナビゲーター長谷川章子さんのファシリテイトで、龍馬会の神谷宗幣氏との対談も行われ密度の濃い講演会となりました。

恩送り食事会@福岡

白鳥監督のトークショーに続き、恩送り食事会ならではの「三尺三寸箸」体験をして頂きました。

12/21

第2回恩送りフェスタ〔前述〕

## イスラエルツアー

4月28日から赤塚高仁氏引率のイスラエルツアーが開催されました。

近代文明の中心にはユダヤ人の方たちがいらっしやいます。金融、軍事、医療、食料計画…。それらを中心に動かしているのが世界に1300万人近くいるユダヤの方々です。政治はその中心にいる方々の支援で動いています。2000年前、国を無くしたユダヤの人々がどんな思いでこれまでの年月を生き、乗り越えて世界の中心にまで上り詰めてきたのか。それを知るにはイスラエル建国の精神を肌で感じる事が重要な鍵となります。人類の文明を共存共栄の方向に導くためには、ユダヤ民族の力と協力関係が重要な要素となるのです。

実際行ってみると、日本で受けるイスラエルに対する「危険で頑な国」という印象とは全く違うものでした。安全で豊かで、イスラエルで暮らすユダヤの人々は穏やかそのものでした。もちろん、ある特定の場所などでは緊張感の走る場面もありました。中でも衝撃的だったのは、アラブ人の女性達の横を一人のユダヤ人が通っただけで、アラブ人の女性達が激しい罵倒を浴びせかけていた場面です。そういう光景は日常茶飯事のように、ユダヤ人の周りを拳銃を持った兵隊が警備しながら歩いていました。

民族や宗教を乗り越えていかにして平和を生み出せるのか？深く考えさせられるイスラエルの旅でした。

詳細は次号にてご紹介します。



2015

● 1/28

映画「蘇生」0号試写会@浅草橋

● 3/7

映画「蘇生」完成披露試写会@新橋

● 4/4

映画「蘇生」劇場公開

● 4/25

東京渋谷アップリンク、大阪シアターセブン、名古屋シネマスコレほか

● 4/28

日本ユウガ学会 「祈り」上映&監督講演@東京

● 5/10

映画「蘇生」特別上映&講演@東京

◎お祈りの履歴

2014年

11月21日 地球に生きる全ての生命体への祈り

12月21日 地球への祈り

2015年

1月21日 サリン事件で被害に遭われた方々への祈り

2月21日 ウクライナへの祈り

3月11日 東日本大震災から4年の祈り

3月21日 地球への祈り

4月21日 地球上に生きる全ての生命への祈り

4月26日 ネパールへの祈り(M7.8の大地震)

5月12日 ネパールへの祈り(M7.8の大地震)

5月21日 ネパールへの祈り

■通信のバックナンバーはHPからダウンロード出来ます。ご活用ください。